

大塩ゆかりの地を訪ねて・第一回

「成正寺に大塩平八郎の墓を訪ねる」

江戸末期、幕府という巨大権力の腐敗に抗議して立ち上がり、明治維新の先駆けとなった大塩平八郎の偉業を偲ぶとき、まずその墓を訪れたいと思うのは人情でしょう。それはここ、成正寺にあります。

◆参拝者に開かれたお寺

地下鉄南森町駅のすぐ北、大阪一の商店街・天神橋筋商店街の西側、お寺が建ち並ぶ一角にあります。住所は大阪市北区末広町一番七号です。写真右上の



ように、お寺の門はいつも開かれて、参拝者を待っています。門前に大阪市が建てた顕彰碑があります。門を入るとすぐ、向かって右手に大塩平



八郎と息子格之助の墓（写真右下）、左手に大塩の乱に

殉じた人びとの碑があります（写真左下）。そして裏の墓地には、大塩家代々の墓があります（写真左上）。

◆なぜここに大塩家代々の墓が？

大塩平八郎の先祖は、駿河今川家の一族で、今川家滅亡後は徳川家に仕え、菩提寺を身延山直末大光寺としています。その本家の縁故で、大坂の大塩家も同じ身延山末の成正寺を菩提寺としたのです。

◆反逆者一族の墓がなぜ残ったか。幾多の災難を乗り越え、引き継がれた墓

乱後は当然廃墓となりましたが、お寺が密かに土中に埋蔵しました。明治三〇年、「中斎大塩先生墓」、大正五年に「大塩格之助君墓」が建立されました。ところが昭和二〇年三月の大阪大空襲で、本堂・庫裏とともに墓碑も損傷しました。それらは、戦後昭和三二年に縁者により、元の場所に復元されました。また、墓地整理中に土中の墓が発見され、安置されました。「大塩の乱に殉じた人びとの碑」は、昭和六年、乱一五〇年を記念して、大塩事件研究会員及び全国有志の浄財により建立されたものです。

◆大塩事件研究会の本拠地は、このお寺です

研究会は、この成正寺を本拠に講演会その他いろいろの行事を行っています。是非ご参加ください。